

月刊島民

中之島

Vol.74 2014 9/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

「高岡流・大阪の
建築の味わい方」

高岡伸一

申し込み受付中!

橋を渡る人の「街事情」マガジン

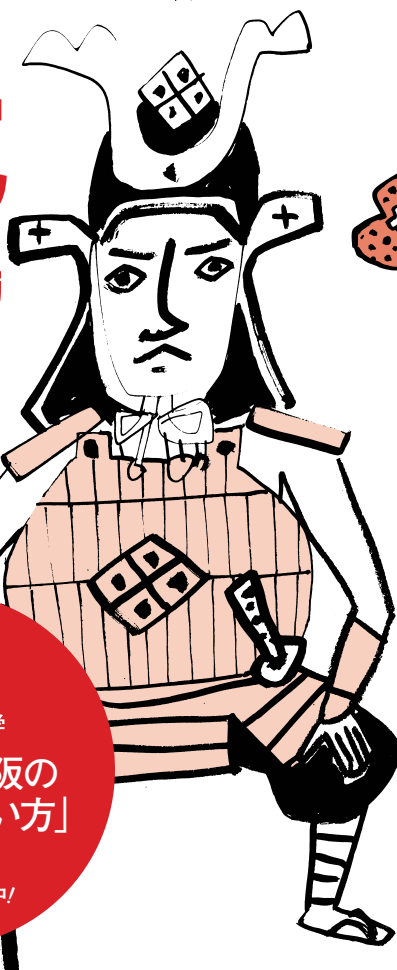
真田幸村
S. Yukimura



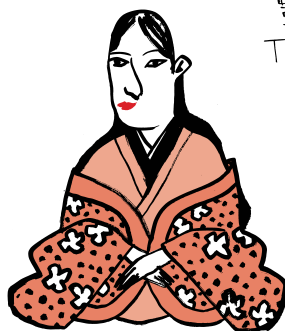
片桐且元
K. Katsumoto



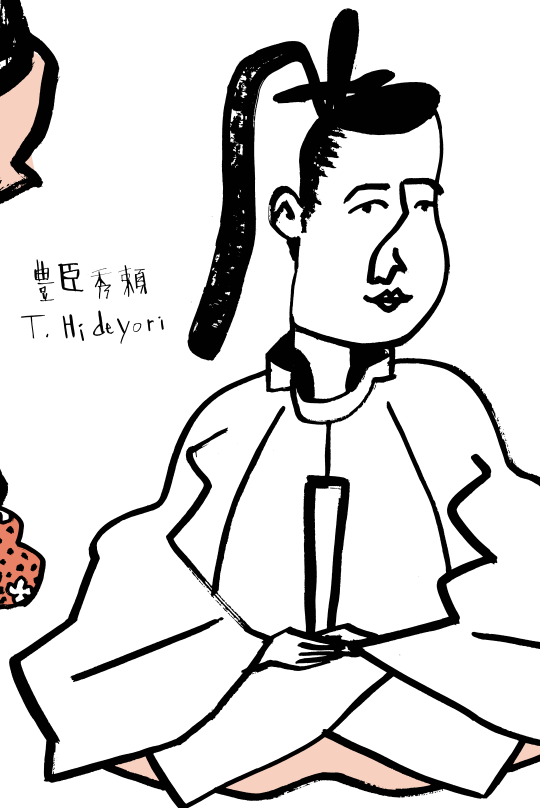
木村重成
K. Shigenari



豊臣秀頼
T. Hideyori



淀殿
Yododono



徳川家康
T. Ieyasu



講談
大坂の陣

400年の時空を超えて、
見てきたような物語を
申し上げます！



講演 大坂の陣

書き手／旭堂南海

上方講談師。大阪大学卒業前(1989年)に三代目旭堂南陵に弟子入り。1998年、咲くやこの花賞受賞。得意ネタは大坂の陣を題材に採った『難波戦記』をはじめ、『太閤記』『浪花侠客伝』『天満宮雪隠記』など。毎月第4火曜日に業年金会館で行われ、200回以上を数える「南海の何回続く会？」ほか、精力的に活動。今年は大坂の陣関連の演目が多い。

今年から来年にかけては、かの有名な天下分け目の決戦、「大坂冬の陣・夏の陣」からちょうど400年にあたる。豊臣方と徳川方が真っ正面からぶつかったこの戦いは、大坂全域で繰り広げられ、中之島の周辺も舞台となっている。というわけで、本誌で「シモノネタ」を連載中の上方講談師・旭堂南海さんに、「登場いただき、講演と史実の境目を通りながら大坂の陣という歴史の転換点を俯瞰しよう。」

一大坂の陣、その時何が起こったのか？

今からちょうど400年前、大坂で豊臣方と徳川方が天下雌雄決する戦いを繰り広げた。慶長19年(1614)に「冬の陣」が勃発し、一旦和睦となったが翌年初夏に「夏の陣」があり、その二つを併せて「大坂の陣」と呼ぶ。豊臣秀吉亡き後、関ヶ原の合戦で大勝利を収めた徳川家康は幕府を開き、倅の秀忠を二代將軍とし、世襲を制度化した。隠居城を駿府(静岡)に築城し、大御所と名乗り悠々と老後を送る

はずであった。しかし、それを許さなかったのが大坂の豊臣家だったのだ。家康に臣下の礼をとる諸国の大名達はおしなべて豊臣秀吉の家来であった。秀吉のお陰で大名になった者も多い。その大恩ある秀吉の遺子・秀頼が二十歳を迎え、朝廷より右大臣の高位を賜り、大坂城にいる。家康が「我亡き後、大名たちは豊臣家に靡くであろう」と怖れたのも無理はない。豊臣に無理難題をふっかけて、何としても戦に持つ

て行こうとけしかけた。豊臣方も家康の殺意を感じ、諸国の浪人たちを大坂城へ入れた。

そして機は熟し「大坂の陣」が起こったのである。結果は徳川方の勝利。秀頼や彼の母淀殿は自害、並み居る武将たちも討死した。家康は政権を磐石にし、翌年亡くなった。大坂城は完全に破却され、その上から新たに「徳川家による大坂城」が築城され、大坂における豊臣は全く姿を消してしまったのである。

数十年後、徳川家康が「悪」の豊臣をどのようにして滅ぼしたかを記した書物が刊行された。『難波戦記』である。いわば幕府公認の軍記である。しかし、これが大坂人の魂に火を点けた。反骨

心を發揮し、家康礼賛のそれとは全く違う、豊臣最良の『難波戦記』を作り上げたのである。家康がいかに卑怯な手を使って豊臣を攻めたか。それに対して秀吉の恩を忘れず大坂城へ集った真田幸村を始めとした忠臣者たちが大活躍するという、大坂人には胸のすく物語である。そして、なんと最後には家康を堺の地で討ち取り、秀頼は幸村に連れられ鹿児島へと落ち延びるという結末にしているのである。

この豊臣最良『難波戦記』は出版は許されず写本として伝えられたが、最も活用したのが当時の講談師であった。荒唐無稽と言ってしまうがそれまでだ。しかし、江戸が中央集権地として君臨することに對して「なにクソ」という心意気が充満した物語は、今こそ大阪人に必要であると思う。

今回は月刊島民に合わせて、中之島周辺が舞台となっている物語を中心に、誌上講演をお送りしよう。





大阪城天守閣の常設展で見られる「大坂冬の陣図屏風(肉筆模写)」の左隻。冬の陣のさまざまな場面が描かれ、天守閣右下の御殿内には淀殿・秀頼母子の様子も見える。

二 決戦前夜、大坂城内大評議

いよいよ両軍が激突せんとしていた決戦前夜、大坂城には指揮を執る軍師が必要であった。秀頼が招聘したのが、関ヶ原の合戦以来14年もの間、紀州九度山で塾居^{しゆくゐ}を強いられていた真田幸村である。「今こそ豊臣家にこそ恩を報ず

る時である」と、倅の大助を従え堂々と入城を果たした。これに勢いを待、後藤又兵衛、長宗我部盛親、毛利勝永、薄田隼人など豪傑たちが次々と入城し、いよいよどのような戦をするかの評議が開かれた。

大坂城内大広間の正面には豊臣秀頼、その左右には淀殿、大野修理、織田常真など、元から城内にいる豊臣家重臣たちが居並ぶ。秀頼が、

「軍師幸村、その方が頼みであるぞ。徳川は20万もの大軍で向かい来る。どのような策がある」

「ハハッ、こちらは十万。小勢が大軍に立ち向かうには先制攻撃に限ります。相手は大坂での戦と思ひ乗り込んで来るでしょう。ならば、こちらは城から討って出て、近江の瀬田辺りで待ち伏せをするのです。徳川方は態勢整わず敗軍となりましょう」

「流石は幸村である」
と秀頼は賛同した。

今や出撃に決まろうとする時「あいや待たれい」と声がかかった。幸村より先に入城していた軍学者の小幡勘兵衛であった。「小勢で出撃して万一破れたらばどうする積もりか。この城は難攻不落の名城であるぞ。籠城しておれば負ける事はないのじゃ。すると、「小幡の言う通りである」と加勢したのが大野修理。淀殿も「これは正義の戦いじゃ。堂々としておれば良い。のう秀頼殿」「：ハイ、母上」。

大野がニッコリし「籠城と決した。その上で幸村、方策を考えよ」。

幸村は評議が終わると密かに忍びの

大坂で語り継がれるヒーロー軍師

真田幸村

1567〜1615 本名は真田信繁。信濃国の小豪族で武田家や上杉家に仕えた。関ヶ原の合戦に敗れ家康に謹慎処分を受けるも、豊臣家の要請に応じて大坂城入り。軍師となる。その知略で最期まで家康を脅かし、大坂では今も英雄の人気を誇る。



者たちに重臣たちを調べさせた。

「申し上げます。たつた今、織田常真殿が、大坂城から抜け出しました。家康の所へ身を寄せるとのこと」

「城内評議の様子はすべて家康に筒抜けになるな」

「申し上げます。小幡勘兵衛は家康の間者とわかりました」

「それで反対意見を言ったのだな。出撃されれば家康は討ち取られると察したのだ」

「大野修理殿は、淀殿と蜜なる関係にあるとの噂がございます」

豊臣のためにと入城した幸村ではあったが、一筋縄では行かぬ城内の様子に先が思いやられた。が、秀頼に「頼む」と言われた上からは是が非でも勝利せねばならぬと決意を固め、大坂城をくまなく調べあげた。その結果、南東が一番の弱みと把握し、出丸を築いた。これが有名な「真田丸」である。

三 鳴野・今福の合戦、木村重成の初陣

「冬の陣」最大の合戦は「鳴野・今福の戦い」と言われている。大坂城の北東に当たり、当時は大和川がうねりながら横たわり、川の南が鳴野で北が今福。泥田同様の湿地であった。「大坂城の弱点は南東と聞いていたが、幸村め、出丸を拵えやがった。ならば北東から攻めよ」と家康。鳴野へ攻めたのは佐竹義宣。今福へは上杉定勝が大軍で襲いかかった。時に慶長19年11月26日早朝のことであった。

対する大坂方の守備は鳴野が矢野和泉守、今福が飯田左馬介。「敵だつ、守れつ」と、矢野も飯田も家来に檄を飛ばして必死の防戦。しかし、佐竹と上杉が人数でも気迫でも勝った。

と言うのも、両者は共に関ヶ原の合戦で豊臣方に味方し、戦後、家康に謝罪し、石高を大きく削られたが、かろうじて大名のままでいさせてもらっていたのである。「なんとしても家康殿に認めてもらわねば」という必死さがあった。家康はそれを見越して命じたのである。

昼頃になると、「矢野和泉殿、討死：鳴野砦が破られました」との知らせ

が大坂城内へ。大野修理などは「これは一大事つ、幸村、どうすれば良いつ」と慌てふためく。幸村は慌てもせず、「後藤又兵衛殿、貴殿にお願いいたす」ところが又兵衛が「軍師、重成殿を向かわせてはいかが。彼は初陣でござる」。言われて幸村は「オオそうであった。重成殿、頼むぞよ」「ハッ」と答えたのが二十歳を過ぎたばかりの木村長門守重成であった。その顔は色あくまでも白く抜けるようで、眼は澄み、男でもウツトリするほど。

木村重成は大坂城内では「沈勇の士」と言われていた。普段から大人しく決して憤らず、いつもニコニコしていた。それゆえ女中たちにはたいそう人気があったが、心ない男たちは「あれは単に臆病なだけだ。戦が始まったら怖じ気ついてしまふに違いない」とけなしていた。

「秀頼様、重成殿の初陣でござります。どうぞ大坂城北東の櫓で御見物を願います」

「ウム」

すると淀殿が「もし敵の流れ玉が当たったりすればどうなさるお積もりか」と猛反対。秀頼は「母上、それは違います。豊臣のために家来が命を賭けて戦ってくれております。大將たる者、それを見守るのは当たり前のごさいます」と事も無げに言い、櫓へと向かう。

一方、重成は駒にと打ち跨がると「一同つ、勇気の無い者は付いて来なくて結構だつ！ 今こそ腹の底に沈ませたる勇気を前面に出す時ぞつ！ かかれつ！」。ピシッと一鞭入れるとパパパッ…。その後ろから「それつ、ご主人の初陣だつ！ 遅れるなつ！」。重

性格までイケメンな秀頼の幼馴染

木村重成 きむらしげなり

1592?~1615 秀頼の乳母子で、幼少時より秀頼に付き従い、元服後は重臣に。初陣だた冬の陣で名を広めた。翌年の夏の陣で向かった八尾方面で、惜しくも命を散らす。潔い戦いぶりは語り草となり、明治29年(1896)、中之島に石碑が建立。



成の手勢は誰一人として欠けることなく鳴野の戦場へ。

見れば佐竹の大軍が陣取っている。重成は「敵は大軍である。よつて香車の備えで攻める。整えよつ」「ハハッ」と家来が縦に長く香車の備え。これは必死の戦法。将棋の香車は敵陣へ突っ込むのみで、引いたり横にそれたりはできない。それと同じで佐竹軍へ突っ込むのみ。初陣でこの戦法をとるなどというのは常人では考えもつかない。しかもその先頭にいるのが重成自身であった。家来の山添了寛に「我は突き進む。お前は手にしたる金棒で佐竹勢を蹴散らせ」。

ちょうどこの時、秀頼が櫓の上へと上がったところ。「ウエーッ」と関の声を挙げながら香車の備えで突っ込んでいく重成の姿が微かに見えた。

「軍師…」



大坂城天守閣より、木村重成が奮戦した鳴野・今福方面を北東に望む。

**魔性の美貌と呼ばれた影の権力者
淀殿**

1569～1615 浅井長政とお市の方の娘で、幼名は茶々、戦国の美女といわれた母親ゆずりの美貌から豊臣秀吉の側室となり、秀吉亡き後は息子秀頼の後見人として大坂城の実権を握る。江戸に幕府を置いた家康と対立を強めた。



**操り人形？でも総大将
豊臣秀頼**

1593～1615 豊臣秀吉と淀殿の間に生まれる。秀吉から豊臣家を継ぐも、関ヶ原の合戦で西軍が徳川家康率いる東軍に敗れて以降、天下人の座から遠ざかる。秀頼が再建した方広寺の鐘銘文が引き金になり、家康と袂を分かつことに。

「あれが『沈勇の士』の姿でござります。沈勇とは普段は勇気を沈めておきます。ですから何があっても感情を顕わにはしません。そんな所で勇気を使ってしまうという時にはもう使えぬ勇気が無くなってしまうというからです。重成が普段穏やかにしておりますのは、今日のこの時のためにでございます」

「天晴れである」

重成はそのまま佐竹勢の中へ飛び込むと、当たるを幸い、手にした槍で相手を討ち取る。家来たちも小勢ながらも敵を蹴散らす。その内に「エーイッ、小癪な奴め。手出しは無用だ。一騎打ちの勝負をいたせ」と大音発したのは佐竹において鬼の異名をとった梅津半左衛門。ニッコリ笑った重成が「いかにも承知。手出しはいたすな」と言うなり、シュッと槍を抜いてバシッ：豪傑の梅津との一騎打ちが鳴野で始まった。

敵も味方も、そして、櫓の上の秀頼も固唾を呑んで見守っていたが、重成の腕が勝った。遂に「ヤァヤァ敵も味方もよく承れっ！ 佐竹の家来梅津を討ち取ったるは豊臣秀頼が家来木村重成であるっ！」。戦場に重成の声が響き渡った。

櫓上の秀頼が「これよ、馬印を立てよ。」「ハッ」と答えて幸村が豊臣家の大将を示す金の千成瓢の大馬印をスーッと立てた。午後の光を受けてピカピカと輝く。これは鳴野の戦場で働く重成や家来たちに、豊臣家が付いているぞ。秀頼は見ているぞというのを知らせるため。「オオッ」と山添了寛が声を発し「重成様、アレを」。言われて重成はるか南西に光る馬印を見て、思わず頭を垂れた。

幸村は「後藤殿、もう重成殿も充分に活躍いたした。交代してやってくれぬか。」「承知」と、又兵衛は櫓から降り、手勢を従え鳴野へ。「重成殿、交代である」。すると重成は「これしきの働きではまだ疲れなどござりませぬ。交代はご無用とお伝え下され」と、そのまま劣勢になっていく今福の戦場へと家来を従え向かった。「実に見事としか言いようがない」と半ば呆れ顔で又兵衛は呟いた。

木村重成がこうに初陣で大活躍したと豊臣最良の『難波戦記』にはある。が、実際の「鳴野・今福の合戦」では、重成も出陣したが手柄があつたかどうかは不明である。大坂城内には淀殿や大野のような人物ばかりではな



東洋陶磁美術館の東隣にある、木村重成を讃える石碑。かつては秀吉を祀る豊国神社の境内だったが、神社が移った後も同じ場所に残る。

いというのを強調しておきたかったのであろう。その役は城内に前々からいた木村重成がうってつけだったのだ。また、この合戦は徳川方が勝利したのが真実である。しかし、「冬の陣」一番の戦いで豊臣方は負ける訳にはいかないのだ。

「難波戦記（なんばせんき）」

「なにわせんき」とも。二条城での徳川家康と豊臣秀頼の会見から大坂夏の陣で豊臣家が滅亡するまで、両陣の経過や戦果を詳しく描いた軍記物語。1672年頃の成立と言われる。京都所司代板倉家の門客・万年頼方と下野国壬生藩主阿部忠秋の家臣・二階堂行憲が共同執筆した。

「後藤又兵衛（ごとうまたへい）」

1560～1615 後藤基次、通称又兵衛。播磨国姫路近くに生まれ、黒田家に長く仕えた。その手腕を見込まれ、大坂冬の陣では木村重成と鳴野・今福方面を守備。

「三長我部盛頼（さんちやがべもろちか）」

1575～1615 四国の覇者・長宗我部元親の四男。家康の監視下にあつたが、土佐の旧臣や浪人たちを連れて大坂城へ。徳川方に狙われた真田丸の守備のため奮戦。

「毛利勝永（もうりかつなが）」

1577～1615 豊臣家にとって古参の臣である尾張国の出。秀頼の信頼も厚く、大坂の陣では豊臣方退却時の指揮が充った。最期は秀頼の介錯を行った後に自害した。

「薄田重人（うすだじむねひと）」

？～1615 本名は薄田兼相。小早川隆景に仕え、主君の死後は豊臣家に仕官。働きを期待されたが、冬の陣では遊郭通いの最中に砦を陥落されるという失態を犯す。

「大野修理（おののしゆり）」

1569～1615 大野治長という名で知られる秀頼の側近。片桐且元追放後、家康との和議を主張し、主戦派の真田幸村と対立。戦後の秀頼母子の助命嘆願は叶わぬ。

四 片桐且元、最期の忠節

「冬の陣」での戦は、徳川方が攻めても攻めても城内から討って出る豊臣方によって駆逐され続けた。一つには

軍師・真田幸村の知略を尽くした作戰が見事に当たったため。今一つは、先の

鳴野・今福の合戦時に、勇気を与えるために秀頼自らが危険をも顧みず櫓上に立ったということであった。豊臣の

家来たちは、秀頼は淀殿の言いなりと思っていたが、実は天晴れる大將であると思うようになり、活躍を見ても

らいたがために一層働くようになったのである。

「佐渡、何か良い手立てはないか」。家康は参謀役の本多^十佐渡守正信に問うた。

「我が軍には大砲が一門だけございます。秀頼が陣廻りで櫓へあがったところを撃ちましょう」

「しかし、あの砲は豊臣方からよ

うやく奪ったもので撃ち方を誰も知らんぞ」

「たった一人だけ知っている者がおります」

「誰じゃ」

「片桐且元でございます」

「オオ、且元かつ！すぐに呼べっ！」

片桐且元は秀吉の家来で、秀吉が亡くなる時には秀頼のお守り役を仰せつかったが、そこを逆にか康に利用されたのである。「大坂の陣」が起こる直前、家康に呼び出されると「豊臣は謀反の心あり。大軍で攻められたく無かったら次ぎの三つの内一つをこの場で選べ」と恫喝された。

三カ条とは「秀頼は大坂城を出て大和郡山か姫路に移る」「秀頼は江戸の將軍秀忠に挨拶して臣下となる」「淀殿を人質として江戸に住まわす」の三つ。且元はその場で必死に考え、「淀殿を江戸へと向かわせます。その代わり品川辺りに広大な地所を下され。そこを我らで整地し、上方から良い材木を取り寄せて御殿をこしらえ、その上で淀殿に入らせていただきます」。

しかし、大坂城へ戻った且元に大野



備前島のあたりは、最も本丸までの射程距離が短く狙いやすかった。

修理らは「裏切り者である」と言い放ち、淀殿も烈火の如く憤った。且元の

心底は「家康は三カ条全てを拒否すれば大軍ですぐに攻めてくる。それよりも土地の整備や建築に数年もかければ、必ず家康は鬼籍に入るに違いない」というものであったが、理解してもらえなかった。

以来、合戦が始まっても且元は病と称して居城の茨木城に逼塞していた所、家康から呼び出されたのである。

「且元、ワシに従え。従わぬと茨木を攻め滅ぼす。役目は簡単じゃ。大砲で秀頼を撃つだけじゃ」

「……」

「イヤか？」

「御受けいたしまする」

「そうか、承知か。ワハハハッ：そりゃそうじゃ。憎い大坂方であるからのう」

「大砲の射程を考えますと大坂城の北大川の中州・備前島から、大坂城北西の菱櫓を狙うのが一番かと存じます」

「そこまで考えたか。お前はもう徳川の忠臣であるぞ」

と、家康は大喜び。

その日の夜遅く、大坂城内の秀頼に「幸村でござる。真田の出丸に矢文が入りました。片桐且元殿からでござります」。「あの裏切り者からかつ」と、穏やかな秀頼も怒声になった。幸村は「重臣の方々の前で披露いたしとうご

ざります」と、夜中ながらも広間に皆を集めると且元の手紙を朗々と読んだ。

「この片桐、大坂城を出しましたが、心はいつも豊臣の大坂城にござります。この度、家康から大砲で秀頼様を狙えと命じられました。徳川方に一門しかない大砲に強い薬を込め、一発撃てば壊れるようにいたします。これで徳川方に大砲は無くなります。家康の目を欺くため、明日、菱櫓に秀頼様によく似た人を上げて下さりますよう。忠義の者がおりますことを祈って、片桐最期の忠節とさせていただきます」

読み終わって皆を見渡すと、「この幸村を軍師として大坂城へ招いて下さったのは片桐殿である。何度も九度山まで足を運んで下さり、東西手切れにならぬように心配りをしているが、万

一の時にはお願いいたす、と。また、真田の出丸を造るよう助言も下さって



忠臣か、逆臣か？ 悲運の中間管理職

片桐且元 かなざりかつもと

1556-1615 加藤清正と共に「賤ヶ岳の七本槍」と称された豊臣家の重臣。近江国に生まれ、浅井氏に仕官したことから淀殿とは縁が深い。関ヶ原の合戦以降、幼い秀頼に代わって政治を行う家康を認めたが、裏切り者として追放されてしまう。



元禄元年(1688)発行と推定される「辰年増補大坂絵図」より。大坂城のちょうど北側に備前島が描かれている。ここから片桐は大砲で天守閣を狙ったわけだ。備前島は現在の片町あたり。大川と寝屋川の接する辺りが島の西端だった。右ページの写真は寝屋川橋から南東に向かって撮ったもの(図中では印のあたり)。大坂橋・京橋の向こうに大阪城が。ちなみに、城の北東に「鳴野」の文字も見える。

いた。そのような豊臣第一の忠臣者の片桐殿を追い出したのは、豊臣方にとっては計り知れない不幸であるっ！」淀殿、大野らは下を向いたまま。秀頼は「すまなかった」と涙を流す。「その片桐殿の最期の忠節。明日の身代わり役、どなたかおられぬか？」。後ろから「この渡辺次郎左衛門に仰せ付け願いたい」とか細い声。皆が振り向くと、青白い顔をした二十歳過ぎの若侍。実は渡辺は豊臣の忠臣であるが病に冒され、医者からも見放されていた。「何の役にも立てぬと諦めておりまし

たが、片桐殿の忠節に役立てるのが嬉しゅうございます」。淀殿、大野らは再び下を向いてしまった。翌日、備前島に据えられた大砲の横で家康が「且元、頼むぞ。秀頼が菱槽に上がったわい。且元は「嗚呼、どなたが御身代わりになられたか？秀頼様とよく似てらっしゃるから、家康達には解るまい...」。ズドーンッ。家康は轟音に思わず尻餅を付いたが、「撃ったか？ 撃ったか？」。佐渡守が「櫓が木っ端微塵に

なりました」。「ワッハハハ...これで秀頼は死んだわい...ウン？ 大砲が壊れてしまっておるではないか」。

且元は家康の問いには答えず、

「嗚呼、忠義の豊臣方よ、申し訳ない。さりながらこれで徳川には大砲是一门も無くなった。最期の忠節果たせたわい」

「且元、聞き捨てならん。お前、大砲を壊すためにわざとこの役を引き受けたのか」

「いかにも」

「おのれ...では櫓の秀頼は...」

「影武者でござる」

「ウツウツ...計略漏らしたなっ...許さん」

「これで且元の役目は終わりでござる。御存分に成敗をお願いします」

と、且元は頭を垂れた。家康は暫くその姿を見ていたが、

「...負けたわい...且元、お前の忠義に家康は負けた...好きにすれば良い」

「それでは高野山に登りまする」

と、且元は一人高野山へ入ったのであった。

以上の如く、『難波戦記』では豊臣第一の忠臣者は片桐且元である。しかし、史実では「冬の陣」直前に退城するまではほぼその通りだが、その後は徳川方に寝返り大坂城を攻撃しているのだ。なにに忠臣者として描かれてい

る。なぜか？ 且元が豊臣家に尽くしていたのは事実である。しかし聞く耳すら持ってもらえなかった。城内には淀殿や大野という「悪」がいたためである。権力を持つ悪の前でどうすることもできない律儀者は時代を超えて存在する。敗者の大坂方は、且元を他人とは思えなかったであろう。

七 織田常真(おだじょうしん)

1558-1630 織田信長の次男・信雄。淀殿の叔父。大坂の陣の直前豊臣方から徳川方へ寝返った。戦歴豊富な方現代に伝わるのは暗君エピソードばかり。

八 小幡勳兵衛(おばたかへえ)

1572-1663 本名は小幡景憲。仕官していた武田家城亡後、徳川方として関ヶ原の合戦で功績を挙げた。大坂城入りするも徳川方に内通。名高い兵学者として名を残す。

九 真田丸(まんだまる)

大坂城南東、平坦な台地に向けて築いた出城。狙い通りに徳川方はこの砦を攻撃し、城の南側が激戦地に。冬の陣後の和議成立の際、取り壊された。

十 佐竹義宣(さたけよしのぶ)

1570-1633 元は水戸の武将だが、関ヶ原の戦い後の国替えにより、出羽久保田藩の初代藩主に。冬の陣の鳴野・今福の戦いで功績で、幕府内での評価が高まった。

十一 上杉定勝(うえすぎさだかつ)

1604-1645 上杉家当主だった景勝の嫡男。出羽米沢藩の二代目当主として、佐竹と並んで冬の陣での猛攻が讃えられた。秀忠、家光と徳川家三代に仕官した。

十二 矢野和泉守

？-1614 本名は矢野正倫。不条理な取り潰しを主君に対して行った家康を恨み、再興を願う秀頼の下に。しかし徳川方の攻撃に敗れ、鳴野・今福にて討死。

五 真田幸村、徳川家康を大仁村に追う

豊臣最良『難波戦記』の特徴に「逃げる家康」というテーマがある。真田幸村の計略に毎度の如くひっかかり、家康は少数の家来、時には単騎で逃げまくる。幸村は家康を後一步の所まで追い詰めるが運の強い家康は助かるというものである。

「冬の陣」で「鳴野・今福の合戦」と並ぶ戦いに「黒門口の合戦」がある。黒門とはおよそ現在の玉造の辺り。黒門を守備していた豊臣方武将が「徳川方に寝返ります。ついでに黒門まで来てくれたなら門を開けます」と密書を出す…無論、幸村の計略である。そ



タヌキ親爺は大坂人の目の敵
徳川家康

1543〜1616 三河国の松平家の嫡男として生まれ、幼少期から今川家で人質生活を送る。織田信長や豊臣秀吉に仕え、秀吉亡き後は秀頼を政治面で支えていた。慶長8年(1603)、江戸に幕府を開いてからは、豊臣家が最大の脅威となることが開戦のきっかけに。



明治期の錦絵「家康大仁村難波戦之図」(真田氏歴史館蔵)。3枚にわたり、逃げる家康(右)を幸村(左)が追い詰める三里(12km)の攻防が繰り広げられている。

れに家康はまんまと乗っかってしまふ。門が開くと中から後藤又兵衛、木村重成らが飛び出し、驚いた徳川の大军は逃げ惑う。家康も馬で茶臼山の本陣まで戻ろうと、玉造から西へ上町辺りまで来たが、軍勢が多すぎて進めない。そこで方向を北に取って曾根崎村へと向かう。後ろからは幸村が駒で追いかける。

「弓矢八幡ようぞお助けを」と、

家康は馬上で念じながらさらに福島まで逃れ来たが、眼前の福島天神の森から出てきたのがなんと真田幸村。「後ろから幸村、前から幸村…どういうことじゃ」。

これも何度も出てくるシーン。ご存じ幸村の影武者である。「七人影武者」とも言われるが、数えればもつというはずだ。しかし、家康はそこをものなるとか逃れて、進路を北にとつて大仁村へ…錦絵などにはこの場面がよくある。大坂人にとってはこれほど胸のすく場面はないのであろう。

家康は大仁村(大阪市立大淀小学校の辺り)へ入ったが、前からは新たな幸村が出現! まさしく進退窮まったという場面。「ああどうしよう」。家康が辺りを見ると貧しい一軒の家。なりふり構わず中へ飛び込むと「助けてくれ。我家家康じゃ」と住人に縋る。このようなシーンもいくつもある…が、ここからが肝心なのだが、こういう場合「助けてくれと来られれば敵も味方もないわい。よっしゃ、ここに隠れなされ」と、大坂の庶民が最後はいつも匿ってくれるのである。そして、幸村は家康を見失ってしまうのである。

主 飯田左馬介(いいたさまのすけ)
生没年不詳。創作の可能性が高い、豊臣家の家臣。飯田家は太坂の陣後に江戸に流れつき、現在の板橋区周辺を開拓したといわれる。

十 山添了寛(やまぞうりょうかん)
生没年不詳。太坂城にいた僧の一人だったが、木村重成の気概に感化されて出陣。八尾で討ち取られるまで、重成に付き従った。

主 梅澤半左衛門(うめづはんざえもん)
生没年不詳。佐竹義宣の家臣といえはこの人、と後世に名を残す豪傑ぶり。槍の名手で、徳川方における切り込み隊長の役割を担った。

主 本多佐渡守正信(ほんださとのかみまさのぶ)
1538〜1616 徳川家康の重臣であり、江戸幕府初期の主導役だった三河の武将。太坂の陣では、高齢のために主に家康に策を提案する役割だったとされる。

主 渡辺次郎左衛門(わたなべじろうざえもん)
生没年不詳。渡辺内蔵助の息子とされ、銃声に怖気づいて逃げ帰った父親の汚名挽回のため、講談師が創作した人物と考えられる。

主 曾根崎村
大川の北側にあり、かつて流れていた観川(曾根崎川)の北岸。現在でいう北新地エリアにあたる。

嗚呼、これをどう評価すれば良いのであろうか。大坂にとって、豊臣にとつて、憎つくき徳川家康を大坂人が助けるのだ。しかもことあるごとに! フィクションだからどのようになんでもきる豊臣最良『難波戦記』なのに! 「そやかて、『助けて』と言われたら助けなアカンやん」という大阪気質なのであろうか。すれば、その気質は今もあるのだらうか。少なくとも物語が出来た時代には存在したのである。(完)



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

街の歴史であり、
人々の営みの証

◎今月の授業

【生きた建築】

ナカノシマ大学×「生きた建築ミュージアム」連携講座

「高岡流・大阪の建築の味わい方」

講師／高岡伸一（建築家/大阪市立大学特任講師）

時代の波を越えて、長く愛されてきた大阪の建築。
その鑑賞のポイントと楽しみ方を、高岡さん目線で解説。

文化財級の価値を持つ歴史的建造物だけではなく、1950～70年代に建てられた高度成長期のビルや街の喫茶店に建築的価値を見出すなど、新しい視点で大阪の建築を語る高岡さん。角を丸くすることで正面性を強調した「カド丸建築」、大阪でしか生まれ得なかったであろう異彩を放つ「大阪的建築」など、その語り口もユニークだ。

その高岡さんが有識者会議の委員として関わっているのが、大阪市の「生きた建築ミュージアム」事業だ。「生きた建築」とは、建築として歴史的価値を継承しながら、なおかつ今も現役で使われている建築物のこと。中之島のダイビル本館や、三井住友銀行大阪支店、大阪ガスビルなどのほか、千日前の「純喫茶アメリカン」

などの店舗も含まれている。

先日、今年新たに選定されたビルや店舗22件が発表された。11月1・2日を中心に、建物公開などイベントも予定されている。つまり、大阪の建築を楽しむには絶好のタイミングなのだ。というわけで、ナカノシマ大学では、この「生きた建築ミュージアム」と連携したイベントを開催。高岡さんにそれぞれの建築の見どころを語ってもらう。同時に、今後行われるその他のイベントについても紹介。高岡流の建築の楽しみ方を伝授してもらおう。



提供／大阪市

講座&館内見学もあり！
大阪証券取引所ビルで開催。

会場は昨年「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」に選定された、大阪証券取引所ビル。2004年に高層ビルへと建て替えられたが、外壁を保存して竣工時の様子を伝えている姿はまさに「生きた建築」。会議室での講義の後、館内見学も行います。

「生きた建築ミュージアム」事業とは？

「ある時代の歴史・文化、市民の暮らしといった都市の営みの証であり、さまざまな形で変化・発展しながら今も生き生きとその魅力物語る建築物」を選定し、大阪の新しい魅力として発信していく事業。昨年度は28件が選定された。今年度の選定や関連イベントの詳細は次号にて！

募集要項	「高岡流・大阪の建築の味わい方」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。
	日時／2014年10月16日(木) 7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～) 会場／大阪証券取引所ビル3階 北浜フォーラム 受講料／1,500円 定員／100名 主催／ナカノシマ大学事務局 協力／大阪市 都市整備局	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学10月講座」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

笑う落語の大阪

第6回 高島幸次

江戸時代の大坂には、新町・南地・堀江・北新地の四花街^{かが}があった。南地は、さらに難波新地や宗右衛門町などの五区に分かれる。「芸は売っても体は売らぬ」芸妓と、そうでない娼妓^{しょうぎ}を抱えた花街は、豊色漸^{しやうしき}に欠かせない。近代に松島・飛田の新地が生れると、その娼妓も落語を彩る。

四花街と総称するが、それぞれに個性のだ。新町は大坂で唯一公認の花街で、最高位の名妓「太夫」を抱えていたから、新町が舞台の廓^{せんだん}「冬の遊び」には梅檀^{ばいだん}太夫が登場する。

四花街の芸妓氣質。

講談などでも有名な夕霧太夫も新町の太夫だ。

北新地には中之島の蔵屋敷や大坂城の武士たちが通い、南地は町人が多かった。滑稽な心中^{しゅうしゅう}「辻占茶屋」では、オッサンから「お前が遊びに行くねやさかいに、どっちみち南ちやうか？」と問われた源やんは、事実、難波新地のなじみだった。

娼妓が客に誠を誓う起請文が主題の「三枚起請^{きせう}」も、難波新地が舞台。娼妓の小輝は、起請文を石版印刷して配りたいというアバズレだ。

各花街の芸妓氣質も異なった。北新地の元芸妓・西川梅十三^{うめとみ}さんから「色の新町、浮気な南、野暮な堀江に、実の北」と教えてもらった。客が作った惹句^{うぶ}らしいが、妥当か否かは、初心な私にはわからない。これは芸妓評であって娼妓評ではないが、小輝に「浮気な南」は相応しい。

しかし、上方落語の名作「たちぎれ線香」は、南地の芸妓・小糸の誠を描く。小糸と相思相愛になった船場の御大家の若旦那は、番頭から蔵に閉じ込められるが、小糸は命をかけて若旦那への想いを貫いた。

桂米團治の「代書」は、無筆の客が松島へ女郎買^{やうらう}いに行くが、桂春團治の「代書屋」では「飛田」だ。この憎めない男には、四花街より松島や飛田がよく似合う。それくらいのこととは、初心な私にだってわかる。

九月寄席の鼎談では、芸妓さんの厳しい教えや、お客の粋な遊びの裏話が聞けるかも。
たかしまこうじ
大阪大学招聘教授、追手門学院客員教授、大阪天満宮文化研究所研究員などを務める。

9月の天神寄席はネタもゲストも華やか！

天満天神繁昌亭では、土地を提供している大阪天満宮に敬意を表し、毎月25日の夜席を「天神寄席」と銘打ち、さまざまな企画を開催している。9月は、花街を彩った芸妓さんたちが主役のネタをお楽しみに。また、北新地の元芸妓さんである梅十三姐さんを鼎談のゲストに迎え、粋なお茶屋遊びについてご指南いただきます。

●9月のお題は「花街」

9月25日(木)

「花街は色とりどり」

落語／桂雀太「色事根問」

桂米左「冬の遊び」

桂文華「三枚起請」

林家染弥「辻占茶屋」

桂春之輔「たちぎれ」

鼎談／桂春之輔

(上方落語協会副会長)

西川梅十三

(日本舞踊西川流理事)

高島幸次

(大阪天満宮文化研究所)



トリをかざる春之輔師匠の「たちぎれ」は、花街が舞台のネタ。



梅十三さんは繁昌亭で噺家さんにも踊りを教えています。



ナカノシマ大学で前売り券を買うとお得！

「天神寄席の前売チケットをナカノシマ大学で買うと、1800円で入場できます。いつものナカノシマ大学と同じく、ウェブ、ハガキ、FAXでお申し込みを受付中。

開催日／9月25日(木)

時間／6:30PM(開場6:00PM)／受付開始5:45PM(

受講料／1800円(通常…前売2000円／当日2500円)

支払い方法／当日、現地にて精算

販売期間／9月24日(水)7:00PMまで

※ナカノシマ大学で販売するチケットは前売り券のみです。当日券の販売はありません。

●申し込み方法はP9を参照してください。

●問い合わせ ☎06・4799・1340

うまさぎっしり新潟



関西人のための

「新潟のええところ・うまいもん・ゼミナール」 近くなる新潟。2015年春、北陸新幹線が開業！

第1回「おそろべし！新潟の温泉と食」講師／岩佐十良

「こんなに新潟好きがいたのか!?」
あの人気ゼミが帰ってきました。

昨年10月から5ヵ月連続で開催された「新潟ゼミ」が好評につき今年も開講です。いよいよ来年3月に迫った北陸新幹線（金沢―長野間）の開業。上杉謙信のふる里・上越市や四季の高原リゾート妙高市など新潟県西部に大阪から3時間半でアクセス可能になります。

今回も新潟の「ひと言」では語れない魅力を、新潟の大ファンかつスペシャリストである5人の講師に紹介してもらい、新潟行きのヒントをたくさん手に入れていただくと思っています。

第1回目の講師は、昨年に引き続き雑誌『自遊人』編集長の岩佐十良さん。新潟県南魚沼市に編集部を移し、現地で古民家宿の経営や米づくりも手がけ、さらには温泉王国でもある新潟の名湯秘湯をはじめ全国の温泉情報サイト「自遊人温泉倶楽部」も運営する岩佐編集長に、温泉地の数が全国3位を誇りながらも関西人には意外に知られていない、越後の湯と食を語っていただきます。もちろん新潟名産のお土産付き。お楽しみに！



上越国際スキー場に近い大沢山温泉（南魚沼市）の露天風呂。空の色が違う！

●今月の授業
温泉と食



いわさ・とおる

1967年東京生まれ。2000年に「食と旅」をテーマにした雑誌『自遊人』を創刊。2004年に編集部を東京から南魚沼に移転し、社員とともに移住。米づくりを始め、本物の食品を求めてショッピングモール「オーガニック・エクスプレス」、農業生産法人「自遊人ファーム」を立ち上げる。昨年、古民家の宿屋「里山十帖」も開業。南魚沼市在住。新潟を内側からよく知るキーマンである。



続々登場！
新潟の魅力を語る
スペシャリスト講師陣

第2回 11.5(水)
恩田雅和(天満天神繁昌亭支配人)

第3回 12.3(水)
千葉望(文筆家)

第4回 1.14(水)
鷺尾圭司(水産大学校理事長)

第5回 2月(未定)
地酒と食材を味わう会(有料)
※会場は未定

●第1回～4回の会場は
昨年のお新潟ゼミですっかりおなじみになった梅田・富国生命ビル4回の多目的スペース「アサヒ ラボ・ガーデン」。イベント以外の用事でも足を運びたくなる、快適かつ使い勝手のいいフリースペースで大人気です。
☎06-6926-4070 11:00AM～8:00PM 日曜休
<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/>

「おそろべし！新潟の温泉と食」

日時／2014年10月8日(水) 6:30PM～8:00PM(開場6:00PM)

会場／アサヒ ラボ・ガーデン(大阪富国生命ビル4F)

講師／岩佐十良

受講料／無料(新潟県のお土産付き) 定員／50名

主催／新潟県観光協会大阪観光センター

協力／アサヒ ラボ・ガーデン

運営／新潟のええところ・うまいもんゼミナール事務局

お名前・ご住所・電話番号を明記のうえ、下記までハガキ、ファックス、もしくはナカノシマ大学HP(<http://nakanoshima-univ.com/>)内の応募フォームからお申込みください。ハガキ、ファックスでのお申込みの方は、複数名でご参加希望の場合は人数分の必要事項を明記し、講座名を必ずお書き添えください。〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4F「関西にいがたゼミ」受付係 fax.06-4799-1341 ※締切=9月17日(水)必着。応募者多数の場合は抽選とします。受講票は当選した方のみ、9月24日(水)までに発送します。

適

塾といえ、緒方洪庵が幕末に開いた蘭学塾。中では、若者たちがヨーロッパの最新医療や天文学を学び、近代日本を背負うにふさわしい人物が輩出された。その跡は今もオフイス街・淀屋橋に。言わずと知れた大阪屈指の名所であり、耐震改修工事を経て、この5月に再び門が開かれた。

その再オープンを記念したメニューが誕生したと聞き、大阪大学中之島センター内の「カフェテリア スコラ」を訪れた。一見「学食」めいたカフェテリアだが、リーガロイヤルホテル直営だけあって味は確かなもの。適塾を源流とする大阪大学とのコラボに、期待は高まる。運ばれてきたのは、おかずが詰まった漆器の弁当箱に、ごはん



「試作中は文献を読む手が止まらなかった」と根来シェフ。素麺や魚など、季節によって変わる食材もあり。

適塾生の気分を味わえる、新名物が誕生した。

なにしろ、当時の適塾門下生が食べた味を再現したメニューである。スコラのシェフお得意のパスタやピラフといった洋食では、当然ない。
「このメニューのためだけに、器や箸置きを揃えました」と、考案者の根来隆夫シェフ。専門外の和風の

そういえば、島民7月号でも紹介した手塚治虫の『陽だまりの樹』は、この『福翁自伝』をなぞったエピソードが多く登場する。例えば、洪庵の妻・八重の賄いを塾生たちがせわしなく台所で立ち食いするシーン。福澤は、食べ盛りの真裸の若者たちを見て「百鬼立

味付けもそうだが、数少ない資料から納得のいく食材や味を決めた。

再現するにあたって頼ったのは、塾生のひとりだ

った福澤諭吉

の『福翁自伝』

だ。日本の近代思想を牽引

した偉人のエッセイである

が、適塾生の暮らしぶりを

描いたパートは

かなり痛快。

食」と称した。

「他にも『お茶は一六が葱と薩摩芋の難波煮、五十が豆腐汁、三八が蜆汁』という表記があつて、日付によって副

菜が決まっていたみたいです」。この

適塾御膳には、その副菜が勢揃い。大

阪人好みの甘辛味一辺倒にならないよ

う、ゴマ油や柚子胡椒で変化を付けた

のは、根来シェフの仕事力と想像力に

よる。福澤の同輩の大村益次郎大好物

の豆腐がふんだんに使用されていたり、

適塾ファンがニヤついてしまう小ネタ

の仕込みも、シェフの遊び心。塾生が

この御膳を見たら、あまりの豪華さに

ひっくり返ってしまうに違いない…。

「メインの牛肉のすき焼き風も、牛

鍋のつもりです。当時は解剖した後の

動物の肉を食べたり、塾生が通った難

波橋南詰の牛鍋屋もまさかつたそうで

すが、さすがにお客様に出せませんか

らね」と笑う根来シェフ。お味は平野

俊夫総長・大竹文雄副学長のお墨付き

なので、どうぞご期待を。「平成の適塾」

をうたう中之島センターに、堂々の新

名物誕生である。



『福翁自伝』福澤諭吉 (1,080円／講談社学術文庫)

カフェテリア スコラ

大阪大学中之島センター 2F

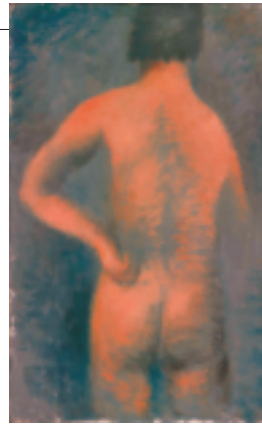
センターに勤める職員や、講座聴講に訪れる人々のランチ御用達レストラン。パスタランチ1,030円やエビフライセット1,030円など、洋食の定番を取り揃えている。適塾御膳1,030円は1日10食の数量限定のため、電話予約すべし。☎06-6444-5214 ランチ11:30AM~2:00 PM(LO) カフェ2:00PM~4:30PM(LO) 不定休



トウニン月報

2014年9月1日発行

戦争の非情さを抽象画に込めた ジャン・フォートリエの回顧展



《左手を腰にあてて後ろを向く裸婦》
1926年 個人蔵
©ADAGP, Paris & JASPAR,
Tokyo, 2014 D0520



《人質の頭部》
1944年 国立国際美術館蔵
©ADAGP, Paris & JASPAR,
Tokyo, 2014 D0520



《黒の青》1959年 個人蔵
©ADAGP, Paris & JASPAR,
Tokyo, 2014 D0520

残暑厳しい大阪の夏。オフ
イス街である中之島は、まさ
しく「ヒートアイランド」と
なる。その緩和を目指して、
去る8月1日、中之島ウエス
ト・打ち水プロジェクトが
開催された。中之島フェス
ティバルタワー、中之島タイ
ビル、中之島三井ビルディング、
淀屋橋odona、ほたるま
ちで、集まった人たちが一
に水を撒いて涼感を演出。川
の水を使うというのが中之島
らしい。

昨年に続いて行われたこの
イベントは、中之島ウエスト・
エリアプロモーション連絡会
が主催し、中之島まちみらい
協議会が連携して行われてい
る。中之島に拠点を置く企業
が中心となり、環境活動に一
役買っているわけだ。

「水辺のまちの防災訓練」と称
して、緊急物資のバケツリレ
ー体験や、消防艇による放水
訓練も行われた。これも水辺
ならではの取り組みだ。（天
迫力・本誌）



中之島を涼しく 「打ち水」イベント開催

国立国際美術館では、パリ
で活躍した画家、ジャン・フ
ォートリエの没後50年を記念
し、回顧展が開かれることにな
った。約90点もの作品が日
本に集まる大がかりな展示は、
今回が初めて。

フォートリエの名を知らし
めたのは、第二次世界大戦後
に発表された連作「人質」。暗
い背景に浮かび上がる、歪に
ひしゃげた人間の頭部。そこ
には、フォートリエ自身がド
イツのゲシュタポに追われる
緊張感と理不尽さ、レジスタ
ンスの叫び、危険を冒して打
ち込んだ制作活動への熱意が
厚く塗り込められていた。「人

国立国際美術館「ジャン・フォートリエ展」
期間／9月27日(土)～12月7日(日)
会場／地下3階展示室
入館時間／10:00AM～4:30PM
(金曜は～6:30PM)
※入館は閉館の30分前まで
休館日／月曜日(10月13日・11月3日・24日を除く)
※祝日の場合は開館し、翌日火曜日閉館
入館料／大人1,400円・大学生1,000円
問い合わせ ☎06-6447-4680

豪商から大企業へ 大同生命の特別展

大同生命大阪本社ビルでは、
大同生命の礎を築いた豪商「加
島屋」の時代までさかのぼっ
た特別展を開催中だ。大阪大
学が協力し、創業者の広岡家
や本社ビルの保存史料250
0点を研究。堂島米市場のシ
ステムや、豪商と藩の取引を
示すパネル展示など、具体的
な数字や史料で魅せる「研究
成果」に思わず唸ってしまう。
また朝の連続テレビ小説「花
子とアン」放送時期に合わせ、

特別展示「大阪屈指の豪商
『加島屋』からの400年の歩み」
期間／9月30日(火)まで
会場／大同生命大阪本社
2階メモリアルホール
※入館無料・1階エントランスにて
入館受付が必要
入館時間／10:00AM～4:00PM
(水曜は～7:00PM)
問い合わせ ☎06-6447-6111(代表)

ヒロインの村岡花子に大きな
影響を与えた女性実業家・広
岡浅子を紹介した企画展も見
逃せない。（江口由夏・本誌）



月刊島民プレスが責任編集!

御堂筋・北船場エリアに暮らす
魅力を紹介するWEBマガジン

淀屋橋 Yodoyabashi
Real

地上35階建のタワーレジデンス
「クラッシィタワー淀屋橋」公式サイト上で展開。
<http://midosuji-living.jp>

淀屋橋タワー

検索

今や店舗数は中之島を含めて全国に55店。赤と黒のロゴに見覚えがある人も多いだろう。「エール・エル」の看板商品は、ワッフル生地クリームや果物を挟んだ「ワッフルケーキ」。ひと口ではなくふた口サイズ。食べやすい大きさで、たくさんの味のバリエーションが人気の秘密だ。

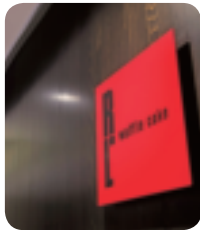
その命はなんとと言っても生地。お店の人は「皮」と呼び、「皮が美味しければ何を挟んでも美味しい。それぐらいこだわっています」と話す。

ワッフルケーキはふんわりとした食感が特徴。ホットケーキと同じで、生地の中に気泡をうまく含ませることが、ふっくらとした焼き上がりにつながる。そのためには、生地の温度を一定に仕上げるのが重要になる。具体的には、気温に応じて加える水の温度を調整するそうだ。

また、生地にはチョコや抹茶、イチゴなどのバリエーションがあり、それぞれ水分量や焼き加減が異なる。ワッフル作りの中でも一番気を遣う繊細な作業で、創業以来20年以上勤める方もいるという自社工場の職人の経験と技によって支えられているのだそうだ。

何をあわせても美味しい、しっとりふっくらの子地の妙。

「エール・エル 中之島店」 ●ワッフル



店内の壁には杉材を使っている。素材感が出るよう、木目がうっすらと見えるように仕上げている。

こうして作られるワッフルケーキは常に20種類が店頭に並ぶ。スタンダードに加えて、毎月5〜8種類も季節の限定品が登場する。そのため本社では、毎週、新商品の開発のための会議や試食が行われている。

ところで、「エール・エル」を

運営する「新保哲也アトリエ」の新保哲也氏は、なんと住宅や店舗を手がける建築家。建築だけでなく、家具や照明、食器や料理までデザインしたいと考える中で辿り着いたのがワッフル専門店だったという。お菓子を売る店としては珍しい黒と赤を基調とした内装も、新保氏の発想によるものだ。ものをつくることへのこだわりと、新しいアイデアを取り入れていくこと。それが建築とワッフルを結びつけ、「エール・エル」を誕生させたのだらう。



9月限定のワッフルケーキにはマロンクリーム入りの「ホワイトショコラモンブラン」(130円)、洋なしカスタードが入った「洋なしピーチ」(130円)、りんごの果肉入りの「りんごとさつまいも」(120円)など、秋にふさわしい味が勢揃いする。※写真はイメージ

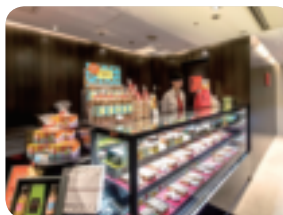


祝 祭 へ よ う こ そ。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>

提供 / 株式会社 朝日ビルディング



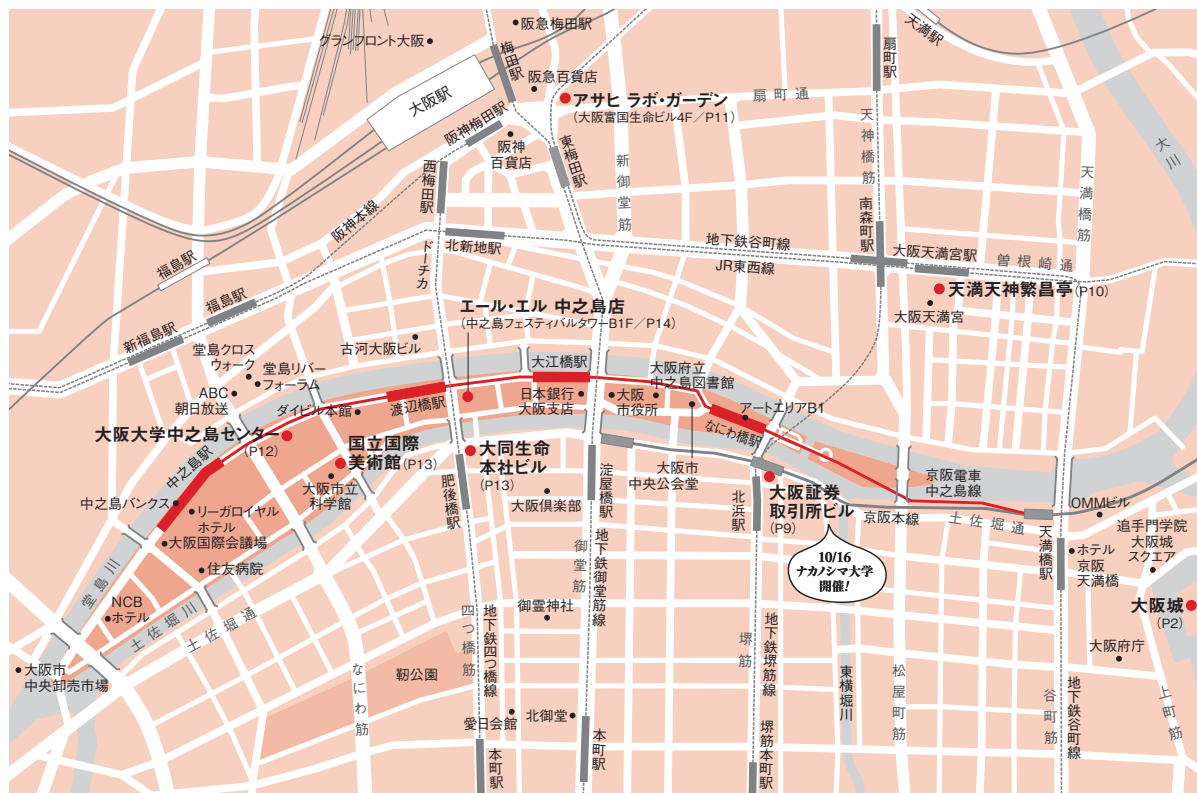
エール・エル 中之島店

●中之島フェスティバルタワー B1F

常に20種類があるワッフルケーキは、クリームやチョコレートなどの定番から季節のフルーツが入ったものなどさまざま。値段はすべて100〜130円で、あれこれとたくさん買いやすい。その他、ワッフル生地を使ったロールケーキの「くるくるワッフル」、しっとり焼き上げた「神戸ワッフル」なども。中之島店ではイートインも可能で、ワッフルケーキ2個とコーヒーのセットは480円。☎06-6201-0001 10:00AM〜8:00PM 不定休

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店／カベラ書店／紀伊國屋書店 梅田本店／紀伊國屋書店 グランフロント大阪店／紀伊國屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルソンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛塚書店 大江橋店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など] アイスボット／朝日カルチャーセンター 味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪シティキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス
- [店舗・医院など] アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／OOO(オー)／カセッタ／喫茶センター／喫茶SAWA／レストラン中之島／黒門さかえ／コモンカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・プロディ／シアトルベストコーヒー新聞電ビル店／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャノ／バスターレー／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイルハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／ラクカーニャ／LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 大阪書店／紀伊國屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳々堂／ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 [店舗・医院など] あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御舟かもめ／Cabo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワナ／バルビコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂／Books 呼文堂／水嶋書房 千早はーモール店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画広報・学芸連携事務局／大阪大学 21世紀記憶館／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／恵文社 一乗寺店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・シンパソン／百練／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 島民とウイスキー。

秋から始まる朝の連続テレビ小説は、ニッカウキスキー創業者がモデル。
初の国産ウイスキー造りに挑んだ彼を始めとする、島民の物語を探る。

●『月刊島民』vol.75は2014年10月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狹健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社



中之島けい子 建仁寺



裏具ハツ子



両足院



ZEN CAFE

おけいはん、祇園・東山でZEN体験

心やすらぐ禅寺のある街へ、祇園四条駅から。



おけいはんが祇園・東山で禅を体験!
フォト日記やエリア紹介マップをweb上で公開しています。

チャレンジおけいはん

検索

Facebook

@c.okeihan



感じる、木々のささやき

京都のおけいはん。